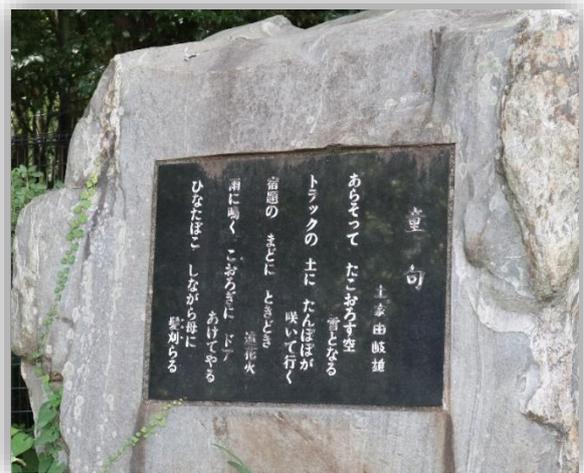


# 「童句の世界」美術展の課題

「童句」とは、純真かつ素直な心と子どもの心でつくる俳句のことです。童話『かわいそうなぞう』で知られる、狭山市にお住まいだった童話作家の土家由岐雄<sup>つちやゆきお</sup>氏が創始し、狭山市が発祥の地となります。

この度、狭山市立博物館では、子どもの心に還り、喜怒哀楽の感情、生活、見聞などを詠み、大人が読んでもしみじみとした詩情が胸にしみる「童句」の周知と理解を目的に、第4回博物館公募展『「童句の世界」美術展』を開催します。

募集テーマは、智光山公園内の「こども動物園」入り口にある、土家由岐雄氏の童句の碑に彫られた五つの句の情景をイメージした作品を募集いたします。



## 課題の童句

- ① あらそつて たこおろす空 雪となる
- ② トラックの 土に たんぼぼが 咲いて行く
- ③ 宿題の 窓に ときどき 遠花火
- ④ 雨に鳴く こおろぎに ドア あけてやる
- ⑤ ひなたぼこ しながら母に 髪刈らる

つちやゆきお  
**土家由岐雄** 経歴 (童話作家・童句創始者)

本名は土屋由岐雄。明治37年(1904)6月10日東京都小石川に生まれる。小学校を卒業してから、児童文学雑誌への投稿を行い、40編あまりの作品が入選を果たした。東京工学校採鉱冶金科卒業後は三菱商事や東京都教育局などに勤務しながら作品を発表していた。

戦後は幼年童話の分野でも活動を始め、『三びきのこねこ』で第1回小学館文学賞を受賞、昭和46年(1971)『東京っ子物語』で野間児童文芸賞を受賞、昭和50年(1975)には児童文化功労者として、日本児童文芸家協会から表彰された。

童話『かわいそうなぞう』は国語の教科書に採用され、戦争児童文学の代表的な作品として知られる。

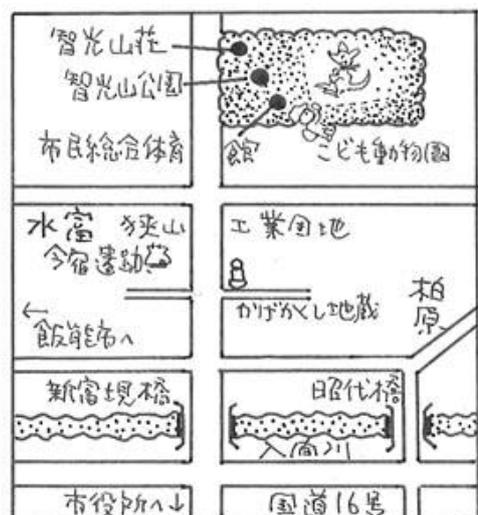
多くの児童文学作品を発表する一方で、児童を対象にした童句を創始し、複数の作品集を発表した。平成4年(1992)1月から平成11年(1999)3月まで、読売新聞日曜版の「童句」欄の選者を務めていた。

昭和46年(1971)より埼玉県狭山市入間川に移住し、狭山市文化特別功労賞、埼玉県文化ともしび賞を受賞。平成11年(1999)7月3日に心不全のため死去、95歳没。

狭山市の智光山公園こども動物園前には土家由岐雄の句が刻まれた童句碑が建てられている。

残しておきたい 狭山の風景

智光山公園内にある「こども動物園」の入り口に童句の石碑があります。



題字・童絵 池原昭治氏